



Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の使用方法

この章では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の使用方法について手順を追って説明していません。エンドユーザ向けの詳細な手順や追加のトレーニング情報については、次を参照してください。

- 『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ユーザガイド Release 5.4』: Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Web ページの [ヘルプ] リンクおよび Cisco.com からアクセス可能。
URL : http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_user_guide_list.html
- **Cisco Unified MeetingPlace Reference Center** : Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ホーム ページの Reference Center リンクからアクセス可能。

次の項を参照してください。

- 各国言語別ユーザインターフェイスについて (P.8-2)
- 会議の種類について (P.8-3)
- エンドユーザ要件 (P.8-3)
- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページについて (P.8-4)
- 会議コンソールについて (P.8-5)
- 会議アクセス権と会議の種類について (P.8-7)
- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing での NetMeeting 3.01 の使用について (P.8-8)
- プレゼンテーションモードについて (P.8-9)
- アプリケーション共有モードについて (P.8-10)
- ホワイトボードモードについて (P.8-11)
- アノテーション機能について (P.8-11)
- 記録と再生について (P.8-12)
- 添付へのアクセスについて (P.8-13)
- 投票について (P.8-15)
- Cisco Unified MeetingPlace Video Integration について (P.8-15)
- 会議コンソールのセッション中機能について (P.8-17)
- Java 無効クライアントについて (P.8-17)

各国言語別ユーザ インターフェイスについて

アメリカ英語のユーザ インターフェイスに加えて、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、次の 5 種類の言語をサポートします。

- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- スペイン語 (南北アメリカ)

Web Conferencing は、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server にインストールされている音声プロンプトの言語の種類を自動的に検出します。複数の言語が検出された場合は、Web Conferencing のホームページの右上隅に [言語の選択] ドロップダウン メニューが表示されます。ユーザは、ここからユーザ インターフェイスに使用する言語を選択できます。

ユーザが Web Conferencing にまだログインしていない時点でホームページにアクセスした初回の表示では、ホームページは Cisco Unified MeetingPlace の組み込みゲスト プロファイルに設定されている言語で表示されます。通常、ゲスト プロファイルのデフォルトの言語設定はアメリカ英語です。

前回ログインしたユーザがプロファイル言語をドイツ語に設定していた場合は、ドイツ語でホームページが表示されます。プロファイルの設定言語にかかわらず、[言語の選択] ドロップダウン メニューを使用すると別の言語を選択することができます。ただし、ここで選択した言語は Web ユーザ インターフェイスにのみ適用されます。音声プロンプトの動作は別の言語ルール セットで管理されます。

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server への Cisco Unified MeetingPlace の言語インストール手順および言語ルールの詳細については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guide09186a0080333d10.html

の『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server ローカリゼーション手順』を参照してください。

会議の種類について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、さまざまな会議ニーズに対応するために、会議の種類が次のように用意されています。

- オープンフォーラム会議：ユーザ全員が平等に発言し、聞き、コンテンツを共有できる会議です。デフォルトの会議の種類はオープンフォーラムです。
- 講義形式の会議：ユーザアクセス権による強力な制限を持つ制御された会議環境です。音声アクセス権については、1 人だけまたは複数の発言者が指定され、大部分の参加者はリスナーとして参加します。会議コンソールアクセス権については、ユーザクラスに基づいて、ユーザにリスナー、参加者、またはプレゼンタのアクセス権が与えられます。
- 即時会議：デフォルトのスケジューリングパラメータを使用して開始を自動的にスケジュールできる会議です。
- 予約不要の会議：会議 ID が事前に割り当てられており、ユーザが前もってリソースをスケジュールする必要がない会議です。予約不要の会議の会議 ID は、スケジュール担当者のプロフィール番号と同一になります。



(注)

ユーザが予約不要の会議を開始するためには、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムが予約不要モードに設定されている必要があります。Audio Server システムを予約不要モードに設定する詳細手順については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html にある、該当する『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

- ビデオ会議：Cisco Unified MeetingPlace Video Integration をインストールしている場合、適切な権限を持つユーザは、Web Conferencing を使用してビデオ会議を作成したり、ビデオコンポーネントを音声または Web 会議に追加できます。ビデオ会議をスケジュールするユーザは、ビデオ端末 (Cisco Unified MeetingPlace ユーザ プロファイルが設定されている会議室のビデオシステムといったビデオエンドポイント) の可用性を確認したり、ビデオ端末を予約することもできます。
- マルチサーバ会議：さまざまな Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム上の参加者が、同じ会議に参加しているかのようにコミュニケーションを行うことができる会議です。ユーザは、マルチサーバ会議をスケジュールするときには、1 つの Audio Server システムを他のセカンダリ Audio Server システムへの接続を管轄するプライマリサーバとして指定します。マルチサーバ会議には、次の制約があります。
 - マルチサーバ会議には Web サーバは含まれません。マルチサーバ会議の Web 会議コンポーネントは、プライマリ Audio Server システムに関連付けられている Web サーバでスケジュールされます。
 - マルチサーバ会議のビデオは、複数のサイトでは使用できません。参加者は他のサイトのビデオ発信者の声を聞くことは常時可能ですが、顔を見ることはできません。

エンドユーザ要件


エンドユーザ要件については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html の『System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace』を参照してください。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページについて

Web ブラウザのアドレス フィールドに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の URL を入力すると、Web Conferencing のホーム ページが次のオプションと共に表示されます。

表 8-1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページのオプション

クリックするタブ	移動先
会議に参加	会議 ID を入力することで、特定の会議にすばやく参加します。あるいは、プロフィールユーザまたはゲストとしてサインインできる [会議に参加] ページにアクセスします。
会議スケジュールの作成	会議のパラメータを指定して今後行う会議をスケジュールできる [新しい会議] ページにアクセスします。  (注) ゲストユーザはこのオプションを使用できません。
会議の検索	過去、将来、または現在の会議を検索できる [本日の会議] ページにアクセスします。 <ul style="list-style-type: none">• システムのデフォルトでは、ゲストユーザはこのオプションを使用できません。ゲストユーザを許可する方法については、P.2-33 の「公開された会議をゲストが検索できるようにする」を参照してください。• [会議の検索] 機能は、内部 Web サーバだけで使用できます。
即時会議	会議 ID を入力して、会議をすぐに開始します。即時会議は、システムのデフォルト スケジューリング パラメータを使用してスケジュールされます。 <ul style="list-style-type: none">• この方法でスケジュールする場合は、独自の会議パラメータを指定できません。• ゲストユーザはこのオプションを使用できません。

会議コンソールについて

会議コンソールは、音声、ビデオ、および Web による会議機能を緊密に統合し、直感的に操作できるシームレスな会議を実現します。ユーザは、会議通知または Web から会議コンソールにアクセスします。

会議コンソールを使用すると、ユーザは、メニュー、参加者の表示、チャットなど、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の機能を完全に利用できます。ビデオ会議など、一部の機能では、別の Cisco Unified MeetingPlace 製品またはオプションの購入が必要となります。詳細については、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

システムやインターネットブラウザの中には、会議コンソールを完全にはサポートしていないものもあります。エンドユーザ要件については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html の

『System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace』を参照してください。



(注)

会議コンソールのロード時間は、個々の配置によって異なります。一般に、1 分未満であれば会議コンソールのロード時間として許容可能な長さです。

表 8-2 に、会議コンソールの機能を示します。


接続の速度やステータス データ、会議の権限など、会議コンソールを使用する場合の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_user_guide_list.html にある、該当する『Users Guide for Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing』を参照してください。

課金目的で会議コンソールの使用状況を追跡する方法については、P.2-40 の「会議コンソールの使用量の追跡」を参照してください。

表 8-2 会議コンソールの機能

機能	説明
メニュー	[個人]、[会議]、[共有]、および [ヘルプ] の各メニューにより、さまざまなセッション中機能に論理的にアクセスできます。ユーザのゲスト ステータスまたは会議コンソール アクセス権が原因で使用できないメニュー項目は、淡色表示されます。
アノテーション ツールバー	アノテーションが有効である場合は、このツールバーに、すべての Web 会議モード用のさまざまなアノテーション ツールが表示されます。
Web コラボレーション ウィンドウ	Web コラボレーション ウィンドウは、会議コンソールの右側のペインに表示されます。このウィンドウから、ユーザは、プレゼンテーション モード、アプリケーション共有モード、またはホワイトボードモードでドキュメントの表示またはコラボレーションを行うことができます。
会議の詳細	会議 ID やダイヤルイン情報などの会議の詳細は、会議コンソールの右上隅、メニュー オプションの隣に表示されます。
[接続] ウィンドウ	[接続] ウィンドウは、会議コンソールの左上に表示されます。このウィンドウには、発言者と共有者が動的に表示され、参加者を会議の音声コンポーネントおよびビデオ コンポーネントに接続するための [接続] ボタンがあります。

表 8-2 会議コンソールの機能 (続き)

機能	説明
[スライド] タブ	[スライド] タブには、会議に添付されているプレゼンテーション スライドおよび会議中に撮られたスナップショットがサムネール形式で表示されます。プレゼンタ アクセス権を持つユーザだけが、[スライド] タブにアクセスできます。プレゼンタは、スライドをプレビューしたり、スライドの順序を変更したり、プレゼンテーションをリロードせずにスライドをすべて削除したりできます。この機能は、記録が有効になった後には使用できません。
[添付] タブ	[添付] タブには、会議に添付されているファイルが一覧表示されます。ユーザが会議中にこのタブからドキュメントを添付することもできます。
[参加者] タブ	<p>[参加者] タブには、現在の会議参加者と、参加者の音声ステータス (ミュートされているかどうか)、会議コンソール アクセス権 (リスナー、参加者、またはプレゼンタ)、ビデオ ステータス、および割り当てられているアノテーション カラーが一覧表示されます。Web サーバの管理ページ ([Admin] > [Web Server]) のパラメータを変更すると、講義形式の会議でゲストユーザに [参加者] タブを表示しないように設定できます。詳細については、P.2-37 の「ローカル Web サーバ オプションのカスタマイズ」を参照してください。</p> <p> (注) [参加者] タブには、最初の 100 人の参加者が一覧表示されません。会議の参加者が 100 人を超える場合は、参加者が多すぎて表示できないことを示すメッセージが表示されます。</p>
[チャット] ウィンドウ	[チャット] ウィンドウは、会議コンソールの左下隅、サイドバーの中に表示されます。サイドバーが閉じていると、ユーザはチャットセッションが開始されているかどうかわかりません。チャット機能は、Web サーバの管理ページ ([Admin] > [Web Server]) で [Allow Chat in Meeting Console] パラメータを変更することにより無効にできます。詳細については、 P.2-37 の「ローカル Web サーバ オプションのカスタマイズ」 を参照してください。


会議アクセス権と会議の種類について

会議のスケジュール担当者は、音声パラメータおよび Web パラメータを伴う会議を Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でスケジュールするときに、オープンフォーラム会議と講義形式の会議のどちらをスケジュールするかを選択します。デフォルトの会議の種類はオープンフォーラム会議です。どちらの会議の種類も、デフォルトの会議アクセス権のセットと関連付けられています。

ビデオをスケジュールするアクセス権は、会議の種類とは関係なく、MeetingTime で設定されます。

表 8-3 に、各種の権限を会議の種類別に示します。

表 8-3 会議の種類に応じたアクセス権

会議の種類	ユーザの種類	デフォルトのアクセス権設定
オープンフォーラム 会議	ゲストユーザ	プレゼンタ会議コンソールアクセス権 発言者音声アクセス権
	Cisco Unified MeetingPlace プロ ファイルを持つエンドユーザ	プレゼンタ会議コンソールアクセス権 発言者音声アクセス権
	システム管理者、連絡先、会議 のスケジュール担当者	プレゼンタ会議コンソールアクセス権 発言者音声アクセス権
講義形式の会議	ゲストユーザ	リスナー会議コンソールアクセス権 リスナー音声アクセス権
	Cisco Unified MeetingPlace プロ ファイルを持つエンドユーザ	参加者会議コンソールアクセス権 リスナー音声アクセス権  (注) プロファイルを持つユーザが発 言者として招待された場合は、 プレゼンタ会議コンソールア クセス権が与えられます。
	システム管理者、連絡先、会議 のスケジュール担当者	プレゼンタ会議コンソールアクセス権 発言者音声アクセス権

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing での NetMeeting 3.01 の使用について

会議コンソールの代わりとして、ユーザは NetMeeting でチャットやホワイトボードを使用して、ドキュメントの表示やコラボレーションを行うことができます。ただし、この場合は NetMeeting を特定のブラウザで動作するように設定する必要があります。

Netscape で NetMeeting を使用する場合、ユーザは、次の手順に従って、ブラウザに NetMeeting の Multipurpose Internet Mail Exchange (MIME) を設定する必要があります。

Netscape 7.0 に MIME タイプを手動で設定するには

-
- ステップ 1** Netscape を起動します。
- ステップ 2** [編集] メニューで、[設定] を選択します。
- ステップ 3** [カテゴリ] で、[アプリケーション] または [ヘルパー アプリケーション] を選択します。
- ステップ 4** [新規タイプ] をクリックします。
- [新規タイプ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** 次の情報を入力します。

フィールド	入力内容
説明	Speed Dial
拡張子	CNF
MIME タイプ	application/Cisco MeetingPlaceNM
使用するアプリケーション	rudll32.exe msconf.dllOpenConfLink

- ステップ 6** [OK] をクリックします。
- ステップ 7** [設定] ウィンドウで、[説明] カラムを見つけます。CNF 拡張子タイプのリスト項目を選択し、[編集] をクリックします。
- [タイプを編集] ウィンドウが開きます。
- ステップ 8** [このタイプのファイルを処理する前に常にメッセージを表示する] をクリックしてオフにし、[OK] をクリックします。
- ステップ 9** 変更を有効にするため、ブラウザを閉じて再起動します。
-

プレゼンテーション モードについて

プレゼンテーション モードでは、Microsoft PowerPoint プレゼンテーションが添付としてアップロードされ、スライドに変換されます。会議のホストは、[スライド] タブで、スライドをサムネール形式で表示したり、スライドの順序を変更したり、プレゼンテーション全体をリロードせずにスライドをすべて削除したりできます。次の点に注意してください。

- 会議の各プレゼンテーションにアップロードできるスライドは 256 個まで、またはファイル サイズで 10,000 KB までに制限されています。
- 変換されたスライドのデフォルト サイズは、1024 x 768 のディスプレイ用に最適化されています。Web サーバに Microsoft PowerPoint がインストールされている場合は、プレゼンテーションモードのスライドの解像度を変更できます。詳細については、[P.2-39 の「プレゼンテーションの解像度の設定」](#)を参照してください。
- プレゼンテーションモードでは、ユーザがスライドにアノテーションを追加して、要点を強調できます。アノテーションは、保存してダウンロードできるように、スライドに保持されます。

制約

- 参加者が記録を有効にした後は、スライドを削除することも移動することもできません。この制約は、会議中に記録が停止された場合でも適用されます。
- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、ビデオアプリケーションまたはビデオストリームの共有はサポートしていません。ビデオストリームをプレゼンテーションモードで (PowerPoint の [スライド] ページにビデオを組み込んで) 共有しようとする、Web 会議の参加者のビデオ プレースホルダには黒色の画面しか表示されません。これはフラッシュベースのビデオ表示には影響しません。Windows はフラッシュをビデオ画像と見なさないからです。

講義形式の会議における最適化されたスライド ダウンロードについて

プレゼンテーションモードで講義形式の会議に参加する場合、会議コンソールでは、すべてのスライドが一度にダウンロードされるのではなく、現在表示中のスライドの 3 枚先のスライドまでがキャッシュされます。この機能によりパフォーマンスが最適化され、ネットワークの負荷が軽減されます。

添付の最大数設定の表示

各 Cisco Unified MeetingPlace プロファイルには、会議をスケジュールするときにアップロードできる添付の最大数を表す設定が含まれています。ユーザのプロファイルで添付の最大数が 10 に設定されている場合、スケジュールした任意の会議にアップロードできる添付の最大数も 10 個です。会議に参加している他のユーザの設定も、管理者個人の添付の最大数設定によって制限されます。

添付の最大数設定を表示するには、次の手順で設定を行います。

添付の最大数設定を表示するには

-
- ステップ 1** MeetingTime にログインします。
 - ステップ 2** [Configure] タブをクリックします。
 - ステップ 3** [User Profiles] を選択し、[Max # of Attachments] フィールドまでスクロールします。
-

アプリケーション共有モードについて

アプリケーション共有モードでは、会議のホストが、事前にアップロードせずにアプリケーションを共有できます。会議のホストは、デスクトップ、特定のアプリケーション、または画面の一部だけを共有できます。会議のホストは、コラボレーションを有効にすることもできます。次の点に注意してください。

- Windows システムのユーザは、完全バージョンの会議コンソールまたは T.120 アプリケーション（NetMeeting など）を使用して、アプリケーションを共有できます。
- Mac システムのユーザの場合は、基本的な会議コンソールを使用したアプリケーションの共有が可能です。
- UNIX システムのユーザの場合は、SunForum 3.2 などの T.120 準拠アプリケーションを使用してアプリケーションを共有できます。

すべてのユーザは、プラットフォームに関係なく、アプリケーション共有モードでアプリケーションを表示できます。

制約

- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、複数のコンピュータのモニタでデスクトップまたはアプリケーションを共有する機能はサポートしていません。アプリケーション共有機能の使用を試みる前に、ユーザのデスクトップまたはアプリケーションが 1 台のモニタ上に表示されることを確認してください。
- Web Conferencing では、ビデオ アプリケーションまたはビデオ ストリームの共有はサポートしていません。デスクトップを共有モードまたはアプリケーション共有モードでビデオ ストリームを共有しようとする、Web 会議の参加者のビデオ プレースホルダには黒色の画面しか表示されません。これはフラッシュベースのビデオ表示には影響しません。Windows はフラッシュをビデオ画像と見なさないからです。

リスナーの待ち時間のフィードバックに関する情報など、アプリケーション共有モードの詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_user_guide_list.html にある、該当する『Users Guide for Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing』を参照してください。

ホワイトボードモードについて

ホワイトボードとは、Web コラボレーション ウィンドウにスライドのように表示される空白のページのことです。ホワイトボードには、会議コンソールのコントロールパネルにあるホワイトボードアイコンをクリックしてアクセスできます。ユーザは多様なアノテーション ツール（会議コンソールアクセス権によって異なる）によってホワイトボードにアノテーションを追加することができます。アクセス権の詳細については、P.8-11 の「アノテーション機能について」を参照してください。

適切なアクセス権を持つユーザは、ホワイトボードセッションのスナップショットを撮ってハードドライブに保存できます。スナップショットをプレゼンテーションに組み込むこともできます。

アノテーション機能について

アノテーション機能を使用すると、1 人または複数のユーザが、対話的な方法でテキストや画像をリアルタイムに追加できます。ユーザが初めて会議コンソールにアクセスすると、システムによって特定のカラーが割り当てられます。このカラーは、[参加者] タブのユーザ名の隣にバーとして表示されます。ユーザは、必要に応じて、アノテーション ツールバーのパレットアイコンをクリックして、アノテーション カラーを変更できます。

アノテーションは、すべての Web 会議モード（プレゼンテーション、ホワイトボード、アプリケーション共有）で有効です。ただし、アプリケーション共有モードの場合、アノテーションが有効になるのはアプリケーションが共有されているときだけです。アプリケーション共有モードで作成されたアノテーションは、アプリケーション上に浮かんだ状態で表示されます。アプリケーション共有セッションでページを変更しても、同じアノテーションセットが表示されます。一方、プレゼンテーションモードで作成されたアノテーションは、アノテーションが追加されているスライドに残ります。

アノテーションを使用できるかどうかは、ユーザの会議コンソール アクセス権によって決まります。

会議コンソール アクセス権	アノテーションが有効かどうか
リスナー	いいえ
参加者	はい
プレゼンタ	はい

記録と再生について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、音声だけの記録と、音声と Web が同期された記録という 2 つのレベルの記録がサポートされています。音声と Web の記録機能を使用すると、ユーザは、会議の音声と Web コンポーネントの両方を記録できます。特に、Web Conferencing では、音声ストリームとすべての Web 会議情報（アノテーションのあるプレゼンテーション、アノテーションのあるホワイトボード、アプリケーション共有など）が記録されます。ブロードキャストプロンプト（入席時や退席時のアナウンスなど）は記録されません。会議に音声コンポーネントがない場合、記録は行われません。会議にビデオコンポーネントがある場合、ビデオ映像は記録されません。

会議が記録された後、ユーザは、[添付 / 記録] オプションをクリックして、Cisco Unified MeetingPlace の [過去の会議] ページからその記録にアクセスできます。

音声の記録は Web Conferencing の標準機能ですが、音声と Web の記録は標準機能ではありません。音声と Web の記録機能をオプションとして購入する方法については、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

記録へのアクセス

音声の記録を聞くには、エンドユーザのシステムに、対応する音声プレーヤーがインストールされている必要があります。表 8-4 に、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing によってサポートされている音声ファイル形式、形式の変換に使用されるエンコーダ、プレーヤー、および各形式を担当するメディア サーバを示します。

表 8-4 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing に対応する音声サービス

メディア サービス	エンコーダ	プレーヤー	ファイル タイプ
Windows Media	Windows Media 9	Windows Media Player 7 以降のリリースが必要	.wma
該当なし	XingMP3	MP3 Player	.mp3

通常、WAV ファイルは一般的な Web ブラウザでサポートされており、専用のサーバは必要ありません。

音声の記録および音声と Web の記録のストリーミング再生を有効にするよう Windows Media Server を設定することをお勧めします。Windows Media Server の設定方法については、P.3-12 の「[Windows Media Server を設定する](#)」を参照してください。再生を行うには、サポートされているサービスとエンドユーザアプリケーションをインストールして設定する必要があります。



(注)

標準のモデム転送速度より低速でリッチメディア再生にアクセスすると、十分な再生結果が得られない可能性があります。記録中にサーバのディスク領域が不足すると、それ以上使用できる領域がないことがすべてのユーザに通知されます。このような状況になる可能性を低くする方法については、P.3-10 の「[音声変換について](#)」を参照してください。

添付へのアクセスについて

ユーザは、Web ブラウザで会議の添付をダウンロードできます。添付のダウンロードを正常に機能させるには、Web 会議サーバと Web ブラウザが Multipurpose Internet Mail Exchange (MIME) 添付を処理するように正しく設定されている必要があります。

ほとんどの Web ブラウザでは、そのままでは Web ブラウザで読むことのできないドキュメントを表示するためのメカニズム（ヘルパー アプリケーションやプラグインなど）がサポートされています。

ファイルタイプを識別するために、Web サーバは、ドキュメントの MIME タイプを Web ブラウザに報告します。Web ブラウザでファイルを正常に起動するには、Web ブラウザをその MIME タイプ用に設定する必要があります。

Windows アプリケーションのセットアッププログラムでは、通常、アプリケーションとファイル名拡張子の間に適切な関連付けが設定されるため、一般的な形式で転送されたファイルをユーザがロードできないことはほとんどありません。

必要に応じて、次の手順を実行してください。

- [Windows Explorer のファイルタイプを設定するには \(P.8-13\)](#)
- [IIS に対する Netscape の MIME タイプを設定するには \(P.8-13\)](#)
- [Netscape における不明なファイルタイプを設定するには \(P.8-14\)](#)
- [Internet Explorer における不明なファイルタイプを設定するには \(P.8-14\)](#)

Windows Explorer のファイルタイプを設定するには

-
- ステップ 1** Windows デスクトップで、[マイ コンピュータ] をダブルクリックします。
 - ステップ 2** [マイ コンピュータ] ウィンドウで、[ツール] > [フォルダ オプション] を選択します。
 - ステップ 3** [ファイルタイプ] タブをクリックします。
 - ステップ 4** 下にスクロールし、[SpeedDial] ファイルタイプを選択します。このファイルタイプの拡張子は、CNF です。
 - ステップ 5** [詳細設定] をクリックします。
 - ステップ 6** [ファイルタイプの編集] ウィンドウで、[ダウンロード後に開く確認をする] をオフにして、[OK] をクリックします。
-

IIS に対する Netscape の MIME タイプを設定するには

Microsoft IIS Web サーバに .cnf ファイルの MIME タイプが設定されていない場合、Netscape ユーザが添付にアクセスしようとする時、[不明なファイルタイプ] ウィンドウが表示されます。Web サーバは、.cnf ファイルを使用して Web ブラウザを Web 会議に誘導します。IIS Web サーバに .cnf ファイルの MIME タイプを設定すると、このウィンドウが表示されなくなります。

-
- ステップ 1** Windows の [Start] メニューで、[Internet Service Manager] を開きます。
 - ステップ 2** [NMSpeedDial] フォルダ (/MPWeb ディレクトリにある) を右クリックし、[Properties] を選択します。

ステップ 3 [HTTP Headers] タブを選択し、[File Types] をクリックして、[New Type] をクリックします。

ステップ 4 [File Type] ウィンドウで、次の情報を入力します。

フィールド	入力内容
Associated Extension	.cnf
Content Type (MIME)	application/Cisco MeetingPlaceNM

ステップ 5 完了したら、[OK] をクリックします。

Netscape における不明なファイル タイプを設定するには

Netscape のユーザが Web ブラウザによって認識されないファイル形式をダウンロードしようとして [不明なファイル タイプ] ウィンドウが表示された場合は、次の手順を実行します。

ステップ 1 [不明なファイル タイプ] ウィンドウで、[使用するアプリケーションの選択] をクリックします。

[外部ビューアの設定] ウィンドウが開きます。

ステップ 2 [選択] をクリックし、このファイル タイプに関連付けるプログラムが格納されているディレクトリを選択します。今後、このファイル タイプを開くときにはこのプログラムが使用されます。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

Internet Explorer における不明なファイル タイプを設定するには

Microsoft Internet Explorer も MIME タイプをサポートしていますが、ファイル タイプをアプリケーションに関連付けるときに優先されるメカニズムは、ファイル名拡張子によるものです。

Internet Explorer で不明なファイル名拡張子を持つファイルをダウンロードしようとする、[不明なファイル タイプ] ウィンドウが表示されます。

ステップ 1 [不明なファイル タイプ] ウィンドウで、[OK] をクリックします。

[ファイルを開くアプリケーションの選択] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイルを開くアプリケーションの選択] ウィンドウで、このファイル タイプに関連付けるアプリケーションを選択し、[OK] をクリックします。

投票について

投票機能では、Cisco Unified MeetingPlace のプロフィールを使用してサインインしたユーザが、1つの質問で構成される投票、複数の質問で構成される調査、またはブレインストーミングの質問を作成して、会議参加者のアイデア、意見、感想などを集めることができます。すべての会議参加者に投票オプションが提供され、結果は会議中または会議後に表示されます。

ユーザが投票を作成するには、会議がスケジュールされている必要があります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の [将来の会議] ページの投票アイコンは、会議のスケジュール担当者だけに表示されます。



(注)

日本語を選択した場合、[WebPoll Results] に円グラフは表示されません。

Cisco Unified MeetingPlace Video Integration について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、Cisco Unified MeetingPlace Video Integration が統合され、会議コンソールからビデオ機能を実行できます。実行できる機能は次のとおりです。

- ビデオ会議をスケジュールする、およびビデオ会議に参加する
- ビデオ端末 (Cisco Unified MeetingPlace プロファイルが設定済みのビデオ エンドポイント) の可用性を確認したり予約する
- ビデオを開始、停止、一時停止、および再生する
- 「複数のユーザ」の表示と「アクティブな発言者」の表示という 2 種類のビデオ映像のどちらかを選択する
- すべての音声ソースをミュートおよびミュート解除する
- ユーザをビデオ会議から退席させる
- ビデオ会議から接続解除する



(注)

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、ビデオ アプリケーションまたはビデオ ストリームの共有はサポートしていません。デスクトップ共有モード、アプリケーション共有モード、またはプレゼンテーション モードで (PowerPoint の [スライド] ページにビデオを組み込んで) ビデオ ストリームを共有しようとすると、Web 会議の参加者のビデオ プレースホルダには黒色の画面しか表示されません。これはフラッシュベースのビデオ表示には影響しません。Windows はフラッシュをビデオ画像と見なさないからです。

ユーザが会議コンソールからビデオ機能にアクセスするには、ユーザの Cisco Unified MeetingPlace ユーザ アカウントに、ビデオをスケジュールする権限が指定されている必要があります。権限はユーザ プロファイルの作成時に指定され、MeetingTime アプリケーション、および Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の [アカウント基本情報] ページで表示または編集ができます。

詳細については、次の項を参照してください。

- [ビデオ会議への参加 \(P.8-16\)](#)
- [ビデオ参加者の会議パスワードと認証 \(P.8-16\)](#)
- [ビデオ専用会議 \(P.8-16\)](#)
- [会議室専用会議 \(P.8-16\)](#)

ビデオ会議への参加

Web からビデオ エンドポイントを経由して会議に参加する機能は、会議のスケジュール担当者がビデオの権限を持っている場合に限り、会議コンソールおよび [会議の情報] ページでサポートされています。会議のスケジュール担当者がビデオの権限を持っていない場合は、会議コンソールからのすべてのビデオ機能が無効になります。

どちらのユーザ インターフェイスでも、ユーザは [接続] ボタンをクリックして会議のビデオ コンポーネントに参加します。会議コンソールから、[接続] ウィンドウが表示されます。ユーザのビデオ アドレスがユーザ プロファイルに指定されている場合は、[Video Endpoint] フィールドにデータが入力されており、このフィールドはオンになっています。ユーザ プロファイルにビデオ アドレスが指定されていない場合、または参加者がゲストの場合、[Video Endpoint] フィールドは空のままであるため、ユーザは手動でビデオ エンドポイント アドレスを入力して Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing で接続できます。

ビデオ会議に接続したユーザは、[参加者] タブにビデオ参加者として表示されます。



(注)

マルチサーバ会議では、会議コンソールからのビデオ機能はサポートされていません。マルチサーバ会議のビデオは、複数のサイトでは使用できません。参加者は他のサイトのビデオ発信者の声を聞くことは常時可能ですが、顔を見ることはできません。

ビデオ参加者の会議パスワードと認証

制限付きの会議の場合、標準の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 参加プロセスによるビデオ参加者は、会議パスワードと認証が必要となります。会議がパスワードで保護されている場合、ユーザは [会議の情報] ページまたは会議コンソールにアクセスする前に、パスワードを入力する必要があります。ユーザは、パスワード認証に成功した場合にだけ、アウトダイヤルでビデオ会議にアクセスできます。

ビデオ専用会議

ビデオのスケジュールリング権限を持つユーザは、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の音声ポートとビデオ MCU のビデオポートのいずれかまたは両方をスケジュールするように選択できます。音声ポートを選択していないと、会議の音声はビデオ MCU からしか提供されません。つまり、音声ユーザから Audio Server にダイヤルしても会議に参加できません。

会議の参加者は、この場合でも Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の参加プロセスおよび会議コンソールは使用できます。ビデオ ダイヤルイン情報を持つ参加者には通知が送信され、ユーザは [会議の検索] ページで会議を見つけることができます。

会議室専用会議

ユーザは、ビデオ端末プロファイルを作成してビデオ エンドポイントを含む会議室が表示されるようにでき、ユーザは、特定のタイムフレームで会議を予約することができます。ビデオのスケジュールリング権限を持つユーザは、Cisco Unified MeetingPlace 会議用の専用ポートがなくても 1 つまたは複数のビデオ端末を予約することができます (ある場所から別の箇所にポイントツーポイントのビデオ コールをセットアップするなど)。この操作により、会議のために使用できない会議室がビデオ端末で表示されるため、会議をスケジュールする他のユーザはどの会議室が使用中になるかを知ることができます。

ビデオ ポートを予約せずに会議室専用会議を予約するには、ユーザは会議を作成し、ビデオ端末を予約し、[会議のオプション] ページで事前定義されているサービス コード ([Non Video Conference] および [Point to Point]) のいずれかを指定します。

会議コンソールのセッション中機能について

セッション中の機能を使用すると、ユーザは、回線のミュート、記録の開始または停止、会議のロックまたはロック解除、サブ会議セッションでのサブグループの作成などの機能を実行できます。セッション中の機能のほとんどは、会議のスケジュール担当者とプロファイルユーザだけが使用できます。ユーザ手順などの詳細については、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_user_guide_list.html にある、該当する『*Users Guide for Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing*』を参照してください。

Java 無効クライアントについて

Java 無効クライアントを使用すると、ユーザは、Java を有効にしなくても Cisco Unified MeetingPlace Web 会議に参加できます。Java 無効クライアントは、Java が有効でないすべてのサポート済みブラウザで使用できます。Java 無効クライアントのサポートを利用するためには、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに MeetingNotes データ ライセンスをインストールしておく必要があります。

Java 無効会議コンソールのユーザには、いくつかの制限があります。詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_user_guide_list.html にある、該当する『*Users Guide for Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing*』を参照してください。

Java 無効クライアントでのユーザの操作性

Java 無効クライアントでのユーザの操作性は、使用しているインターネット ブラウザに関係なく、まったく同じです。ただし、Internet Explorer を使用するとパフォーマンスが向上する傾向にあります。

初めて Cisco Unified MeetingPlace Web 会議に参加すると、ブラウザで Java が有効でないことを知らせるメッセージが表示され、デスクトップに HTML の [スライドショー] ウィンドウが表示されます。プレゼンテーションが共有されている場合、そのプレゼンテーションが HTML の [スライドショー] ウィンドウに表示されます。

■ Java 無効クライアントについて